

じんぐうじづかこふん 神宮寺塚古墳 真岡市根本

じんぐうじづかこふん 神宮寺塚古墳は真岡市の^{とうぶ}東部、^{ねもとやま}根本山や小貝川の近くにあります。つくられたのは、6世紀後半と考えられている^{えんぶん}円墳です。大きさは、東西24.4m、高さ4.2mですが、^{けず}削られている部分もあります。^{じょうたい}状態のよい北側の部分から、^{ちよっけい}直径30mほどの^{えんぶん}円墳であったことが^{そうてい}想定されます。

南側が大きく削られているものの、^{よこあなしきせきしつ}横穴式石室も現存しています。この石室からは「^{せん}磚」とよばれるレンガが^{しゅつど}出土しています。「^{せん}磚」は、今から約2000年ほど前、中国の「^{かん}漢」の時代に^{はか}墓をつくるときに使われたレンガであり、日本で出土している例は少なく、^{きちょう}貴重なものになります。



神宮寺塚古墳西側からの遠景



神宮寺塚古墳北側の様子



↑ 神宮寺塚古墳南側の様子

神宮寺古墳南側にある石室の様子 →

